

2024(令和6)年度 東京都福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

社会福祉法人こうほうえん
キッズタウン
むかいはら保育園

評価期間 : 2024 年 9 月～2025 年 2 月

認証 02-003 特定非営利活動法人市民シンクタンクひと・まち社

目 次

P. 1	福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】
P. 2	事業所の理念・方針、期待する職員像
P. 3	利用者調査
P. 6	I 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）
P. 15	II サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）
P. 20	III サービスの実施項目（カテゴリー 6-4）
P. 25	事業者が特に力を入れている取り組み
P. 26	全体の評価講評

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025年 2月 10日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 160-0021

所在地 東京都新宿区歌舞伎町2丁目19番13号 ASKビル

評価機関名 特定非営利活動法人市民シンクタンクひと・まち社

認証評価機関番号

機構 02 — 003

電話番号 03-3204-4342

代表者氏名 代表理事 工藤春代

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	西條 十喜和	経営	H0902044
	②	相澤 千枝子	福祉	H0701043
	③	谷 嘉子	福祉	H0306025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	キッズタウンむかいほら保育園			
事業所連絡先	〒	173-0036		
	所在地	板橋区向原3丁目7番7号		
	TEL	03-5917-0752		
事業所代表者氏名	飛弾菜穂子			
契約日	2024 年 9 月 9 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 10 月 15 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 15 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 10 月 15 日			
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 14 日			
訪問調査日	2024 年 12 月 5 日			
評価合議日	2025 年 1 月 9 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査の調査票は、保育園を通して全世帯に配付してもらい、回答は郵送と回収箱にて評価機関が直接回収した。訪問調査に向けては確認事項等をワークシートにまとめ、事前に園に送付して回答をもらった。訪問調査当日は、資料等の確認をするとともに園長と副園長から説明を受けた。評価結果報告書をまとめる合議は、担当評価者に他の評価者1名を加え、客観性を高めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 4 日

事業者代表者氏名

飛弾 菜穂子



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)子どもの最善の利益を守り、一人ひとりの子どもの健全な心身の発達を図る。 2)一人ひとりの発達と個性を大切にし、生きる根っこを育む。 3)子どもの視点に立った保育を推進し、いつでも安心して利用できる園作りに努める。 4)子どもとの愛着関係を基盤に子どもの主体的な活動を通して、主体的、思いやり、創造性を育む。 5)保育士との信頼関係が構築され、自己肯定感を育む。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 ・感性が豊かで思いやりのある人材。 ・向上心のある人材。 ・挨拶、笑顔、掃除ができる人材。 ・子どもの最善の利益を求められる人材。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・子どもたちにとって最も身近な人的環境であることを自覚し忘れないこと。 ・子どもの心の声に寄り添うこと。 ・保育士としての誇りと自覚。 ・誠実な保護者対応、支援をすること。

調査対象

全園児105名、86世帯を調査対象とした。

調査方法

園より保護者全員に調査票を配付し、回答は評価機関が郵送と園に設置した回収箱により直接回収した。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

105

86

55

55

64.0

利用者調査全体のコメント

園は最寄駅より8分程の緑の多い閑静な場所にある。建物は法人の複合施設になっており、6階建ての3～6階には同法人の高齢者向け住宅、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護等の施設があり、1・2階に保育園がある。利用者調査の結果では、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」の問にはすべての利用者が「はい」と答えている。「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」、「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」、「保育所の生活で身近な自然や社会と十分に関わっているか」、「施設内の整理、整頓は行き届いているか」、「職員の接遇・態度は適切か」の5問には9割の利用者が「はい」と答えている。「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか」、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」、「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」、「子どもと保護者のプライバシーは守られているか」の4問には8割の利用者が「はい」と答えている。総合的な感想では「大変満足」、「満足」と答えているのは9割で「不満」と答えた利用者はいなかった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	55	0	0	0
利用者のすべてが「はい」と答えている。「3～5歳になると保育者との関わりが少なくなる(配置基準のせいでもある)ため、子どもが考えるか、やりたいことの範囲でしか活動しないので、子どもの可能性を広げるにはよくないと思います」、「他者との関わりから社会性を徐々に身に付けているのではないかと感じています」、「自らがやることを見つけて遊ぶという選択肢が良い」とのコメントがあった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	52	2	1	0
利用者の9割が「はい」と答えている。「あやとり、けん玉、お手玉など昔の遊びやブロックやパズル、手を使う遊びが増えて、家でも楽しんでいます」、「真夏(7、8月)は戸外遊びが非常に制限されるため、室内遊びに工夫が必要と感じました」、「植物を育てるなど非常に良いと思う」、「行きたがらない」とのコメントがあった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	48	7	0	0
利用者の9割が「はい」と答えている。「一か月の食事サイクルの中で1か月2、3回同じものを食べている」、「調味料など離乳食期にあげて大丈夫なのか不安になることがあります」、「世の中、キウイのアレルギーがあるが、普通に出ているので少し心配」、「保護者会などで試食など出来る時間があればうれしいです」、「いつも「保育園のごはんは美味しい」と子どもが言っています」、「とても素晴らしいです」とのコメントがあった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	48	6	1	0
利用者の9割が「はい」と答えている。「夏場は暑さでプールもほとんどできずに終わった。仕方がないかもしれないが、板橋区全体で策を練っていただきたい。他の季節は問題なし」、「午前中の中のみの外遊びでは、物足りず、午後も園庭等で遊ぶ時間を確保していただけると嬉しいです」とのコメントがあった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	38	4	2	11
利用者の7割が「はい」と答えている。「昨年だが、前日17時までにアプリで承認された早出で朝早くにつれて行ったら、聞いてないと言われ嫌な顔を現園長にされたので、それ以来、朝の変更はしないようになった」、「急な残業でお迎えが遅くなる旨を連絡していても担当の先生に伝わっていない事が数回あったのできちんと連携してほしい」、「経験なし」とのコメントがあった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	36	16	3	0
利用者の7割が「はい」と答えている。「年度が変わっても入口のパスワードが変わらないことが不安です。本当は表・裏ともに退職者が出る度に変更した方がよいと思いますが、最低限4月には変えてほしいです」、「外部の方の訪問の際にインターホンで氏名等を聞かずに開けてしまっているのは安全対策として不十分な気がする」とのコメントがあった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	41	12	2	0
利用者の7割が「はい」と答えている。「個人面談や保護者会など、もう少し夕方だと仕事を休まず相談などで対応できるので助かります」、「面談や保護者会に前月の月初めには教えて頂きたいです。日程調整が困難なことがあります」、「面談の日程等、年間予定で決まっていないので調整しづらい」、「日程の連絡を早めにしてほしいと思う事が多い」とのコメントがあった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	42	11	2	0
利用者の8割が「はい」と答えている。「担任(学年担当)の先生への、なつき具合によって、園での子のようすを伝えてくれる情報量に結構差があります」、「子どもの様子を尋ねても、回答ができないことがあったため」、「忙しそうである。相談できる雰囲気ではない」とのコメントがあった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	49	3	1	2
利用者の9割が「はい」と答えている。「上の子が3歳児クラスだったときは「いいえ」だったと思っています」、「いつも朝や日中に掃除をしている先生がいて、とても清潔」、「毎朝しっかりと清掃して頂いているところを見かけます」、「毎日掃除の様子が見れて安心感があります」、「いつもお掃除ありがとうございます」、「いつもキレイな保育園です」とのコメントがあった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	47	6	0	2
利用者の9割が「はい」と答えている。「他のクラスの先生ですが、保護者がいると思わず、不意に子ども達に対する態度や職員同士の会話時に私情が多めのことがあります」、「担任の先生は、どの先生も優しく対応して下さいます」、「個人によって異なる。挨拶をしない職員もいる」とのコメントがあった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	43	8	1	3
利用者の8割が「はい」と答えている。「保育者同士の連絡不足を感じます。ケガしていても報告がなかった時もあり、ちゃんと見てもらえているのか心配になる時があります。担当クラスの先生しか子どもを把握していないように感じます。何かあっても連携不足で親に伝わらないのでは…と思うことも」、「状況による。説明はしてくれるが詳しい状況や今後の対策等はされているかは不明」、「体調に合わせて活動を調整するなど、柔軟に対応してくれています」とのコメントがあった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	32	9	1	13
利用者の6割が「はい」と答えている。「家で「〇〇くんに嫌なことをされた」とよくいっているのに、先生が対応しきれていないのだと思っている」、「以前、相談をした際にはすぐにフォローしていただき、アフターフォローもあり安心できました」とのコメントがあった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	7	0	2
利用者の8割が「はい」と答えている。「保育者と子どもがどのように交流しているのか見る機会がないので、面談や保護者会などで園児に気付かないようにコソコソ様子を伺う機会が欲しいです」、「家で「〇〇君に嫌なことをされた」とよくいっているのに、先生が対応しきれていないのだと思っている」、「状況により異なる。他の子どもと同等を求められても出来ないことも多くつらいこともある」、「担任以外の方も、子どもの好きな物を知り話しかけてくれる」、「本音を聞いているのか、園での様子がわからない」とのコメントがあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	44	3	1	7
利用者の8割が「はい」と答えている。「まだその年齢に達していません」とのコメントがあった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	41	11	1	2
利用者の7割が「はい」と答えている。「話し合いをする場が年数回しかない。普段の引き渡し時は説明はない。保護者会ではわかりやすい説明はある」、「毎月初めに保護者に共有される1頁の木法？みたいなものは何なのか、説明が無いのでよくわからない」、「一日何をやってたかSNSがあるので写真などがあるより内容がわかりやすいと思う」とのコメントがあった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	35	10	1	9
利用者の6割が「はい」と答えている。「前園長に昨年、「昨日仕事じゃなかったんですね？」とこちらの話しも聞かずに最初から全否定されたことが今だに許せない」、「子どもの事を考えると不満は伝えられる雰囲気ではない。忙しそうで要望を伝えづらい」、「要望を伝えた時、共有されていないことが何回もあった」とのコメントがあった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	21	11	3	20
利用者の4割が「はい」と答えている。「まだその機会がありません」、「経験なし」とのコメントがあった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目
	カテゴリ1
1	リーダーシップと意思決定
	サブカテゴリ1(1-1)
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている
	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)
	評価 標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)
	評価 標準項目
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)
	評価 標準項目
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評
	理念や基本方針等をまとめた小冊子「互恵互助」を唱和して理解を深めている 園の理念「子どもの最善の利益を守り、子どもの人権・人格を尊重します。子どもの福祉の増進を図り、生きる根っこを育みます。」や保育方針・保育・教育目標を事業計画や全体的な計画、入園のしおり(重要事項説明書)に記載し、保護者・職員に周知している。園では、理念や基本方針、職員の心得などをまとめた小冊子「互恵互助」を毎日、終礼時に職員が交代で唱和し、職員一人ひとりがこうほうえんの職員と意識し仕事に真摯に向き合っていくことの大切さの理解が深まるようにしている。保護者には法人発行の季刊誌等で周知している。 園長はリーダー会議で協議し方向性を取りまとめリーダーシップを発揮している 園長はリーダー会議(園長・副園長・主任・リーダー保育士で構成)において、園の方針を実現する自らの役割や責務について伝え、園運営の方針を示している。そのうえで園内の課題や今後取り組みたいことなどについて討議している。リーダー層で協議してとりまとめている。職員会議では法人で話し合っていることやリーダー会議で話し合った方向性を具体的に伝え、保育の質の向上を目指し、クラスとしての目標を発表させるなどリーダーシップを発揮している。また、クラスの保育のことは、クラスリーダーに助言して指導をしてもらうようにしている。 園運営に関する重要案件は職員には会議等で保護者には園だより等で周知している 事業計画等の重要事項は主にリーダー会議・職員会議で協議して決定し、職員会議、朝礼等で周知をしている。不参加の職員や非常勤職員にはパソコンによりお知らせや会議録等をいつでも閲覧できるようにしている。また、保護者に対しては、園だより・クラスだより・お知らせ等をSNSで配信・周知している。口頭での周知が必要な場合は保護者会等において周知し、必要に応じて個別に伝えるなど、きめ細かに対応している。

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
保護者の意向は、いつでも出せるアンケートや利用者満足度アンケート等で把握している 保護者の意向は園に直接話があるほか、玄関にアンケート用紙を用意し、園だよりに「どんなご意見でも入れて下さい」とお知らせをして把握している。法人のCS(利用者満足度)アンケートは、「要求したことはすぐ反映されているか」などを聞いている。保護者からの声を職員間で大事にして、例えば、ホームページに保護者の意向で子どもの写真の掲載に配慮したりしている。職員からの意見は、職員会議、朝礼で意見を出せるようにしているが、園長・副園長で園内の雰囲気作りや、意見を言える会議作りを目指して見直しに取り組んでいる。 区や園長会等から得た情報を障害児保育等の課題の抽出に活かしている 行政情報や地域の保育園の情報は、保護者との意見交換・園長会等で情報収集をしている。区のホームページからは国や都の保育行政に関する最新の情報を得ている。園長会で他園の状況や区からの情報を得て園運営の参考にしている。また、法人や区からの情報提供や様々な協会等の保育書・保育月刊誌・保育通信などの閲覧により、障害児保育、病後児保育等における課題の抽出に活かしている。 事業計画の目標を具体的にどの様に実践し実現するかを盛り込んだ計画にするとよい 園では令和5年度に策定した中期計画(10年先を目標)を基本に毎年の事業計画を策定し、保育理念や保育目標の実現に取り組んでいる。中期計画の中には「互恵互助」の理念を基本にした地域に開かれた「保育園児との高齢者・障害者等とのごちやませ保育」の促進等を示している。事業計画には保育理念・目標・保育方針、保育の標準化等の重点事業等が示されている。しかし、事業計画としては具体性に欠けるので、今後は事業計画に示された方針に基づき目標を具体的に誰がどのようにして実践し実現するかを盛り込んだ計画にするとよい。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		☐ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		☐ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		☐ 非該当

カテゴリー3の講評

就業規則の服務規律と「互恵互助」の活用で法令遵守の理解を深めている

就業規則の服務規律に職員の職務遂行に関しては法令等を遵守しなければならないことを定めている。園では法人の理念や社会人としての基本的なマナーなどをまとめた小冊子「互恵互助」を職員が交代で朝礼時に読み合せ、保育に従事する者としての倫理や守秘義務等規範遵守に対する理解を深めている。また、就業規則に個人情報の外部持ち出し等を規定しているが、近年、社会的に指摘されるようになっているセクシャルハラスメントや上位者による下位者に対するパワーハラスメント防止についても規定し、意識の向上に努めている。

重要事項説明書に相談・苦情・意見の申し出先等について明示し周知している

苦情に関することについては、運営規程に「苦情対応として」苦情対応窓口を設置し、責任者は園長とするほか、第三者委員を置くことを明示し、入園時に説明するとともに、保護者会や掲示物で知らせている。第三者委員のことは、玄関掲示板に掲示している。登降園の際等に保護者から苦情等の申し出があった場合は、園長に報告しその指示を仰ぐことにしている。また、朝礼や職員で話し合い共有し、再発防止に努めている。なお、苦情受付窓口として、区や社会福祉協議会に相談できることを入園のしおりなどで案内するとよい。

子育て支援事業「のびのびクラブ」を実施するなど地域の子育て支援に貢献している

園では園の機能や専門性を活かして地域の未就園児を持つ保護者に「のびのびクラブ」を週2回実施したり、離乳食講座や絵本の読み聞かせなどの行事等に参加してもらって子育て支援をしている。保護者同士の情報交換の場となるようゆったりとした雰囲気大切にしている。孤立している保護者が少しでも減るよう、保護者からも積極的に地域の子育て家庭への声掛けしてもらっている。また、地域に開かれた地域に愛される保育園として園周辺のごみ拾いや草むしりを行ったり、敬老の集いやお楽しみ会など地域の高齢者との交流等地域貢献に努めている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	☐ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリー4の講評		
事業計画に感染症対策や事故防止対策等のリスク管理について明示するとよい 園では「子どもの命を守るために」「チームで守る子どもの命」を合言葉に、怪我や食中毒等のようなリスクであっても、必ず職員同士で共有して細心の注意をはらい、保育を進めている。重大事故・マニュアルでは事故の発生原因を分析することが第一順位となっている。ヒヤリハットを報告しているが、件数や内容について集計されていないので、報告書をICT化し、報告とその分析が簡単にできるようにして事故防止に役立てるとよい。事業計画に事故防止対策等のリスク管理について記述し、子どもの身体生命の安全確保対策を明示するとよい。 大災害時や感染症対策のBCPを策定し初動訓練などを実施している 園では大災害時などにおいて組織図の役割分担に沿って対応することの必要性を認識してBCPを策定し、大災害時等においても事業が継続できるよう日頃から職員に周知している。災害発生時の災害本部の立ち上げ、保護者への連絡、待機児童や職員への対応などについて職員で協議・確認し、必要な訓練を行っている。なお、災害発生時の職員や保護者への連絡についてBCPに定めた役割分担に基づき誰がどの役割を担うかなどを具体的にわかるマニュアルを作成し、初動期の机上訓練等を継続し、大災害に備えるなどよい。 収集した情報を就業規則や個人情報保護基本方針に基づき適正に管理している 就業規則に、個人情報の外部持ち出しを禁止するなど情報の適正な管理を行っている。また、個人情報保護基本方針には、個人情報の保護に関する法令の遵守や個人情報の適切な収集、利用、提供の実施、安全性確保の実践、個人情報保護に関する問い合わせ先などを明示し、写真や動画に関する利用について保護者の同意を得ている。職員には入職時に誓約書をとり意識づけている。		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを運動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー5の講評

個人別の研修計画により職員ごとに必要な研修を受講し資質向上に取り組んでいる

園では職員一人ひとりに必要と思われる研修や希望する研修をキャリアアップ研修等をピックアップし、職員ごとに研修計画を作成して自己研鑽により資質の向上を図っている。すべての職員が平均的に受講できるよう研修担当が研修計画を立てて、法人合同研修への参加や区主催の研修に参加している。また、各園で1年を通して研究したことを、年度末にこうほうえん全体での発表で廊下を走る子どもの安全確保に関するヒヤリハットの事例発表は、チームワークづくりや園の課題解決に役立っている。研修受講内容はパソコン内で共有している。

職員会議でクラスごとに考察を発表し、保育の質の向上につなげている

職員会議では少人数での討議を重ね、新人も含め、一人ひとりが自分の意見を発表できるようになっている。お互いを尊重することの大切さを知り、声に出すことで意思疎通ができるようになってクラス全体がスムーズに回るようになっている。また、クラスごとの振り返りを行う事で、クラスのチームワークが良くなっている。一つのテーマについて、全員がしっかり向き合い考えるようになり、子どもの活動の継続について職員が話し合うことにより身になっていく事が多いが、特に独断・あやとり・折り紙等手先を使う活動では、継続できるようになっている。

園長等は職員との面談で意思疎通を図るなど職員の意欲向上を図っている

園長・副園長は職員との面談を年3回(前期・中期・後期)行い、職員の置かれている状況を把握し悩みなどを聞いて助言している。また、職員から個人的に相談に来る場合もあり、気楽に相談できる雰囲気をつくり、話を聞いて職員の気持ちに楽になるようにしている。職員の状況を見て個別に声を掛け面談をするなど職員の悩みの解消に努めるなど意欲の向上に配慮している。このことは職員の離職防止にもなっている。

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】「一人ひとりの発達と個性を大事にし、生きる根っこを育む」との園の理念を踏まえて、「非認知能力」を育むことを大切にしたい取り組みを実現する 【取り組み】職員会議で非認知能力を身に付けられる指導の協議をする。障害児保育の研修を受講した職員が講師となり、全職員でOJTで基本的なこと(愛着等)からGWで話し合い共通認識を持つ。「非認知能力」を育むことを大切にしたい具体的な取り組みとして、夏野菜の栽培(イチゴ・ミニトマト等)、米の栽培～おにぎり作り・リース作り・泥団子づくり、カブトムシ・クワガタ、金魚、メダカ等の飼育を行った。 【取り組みの結果】非認知能力計画を保護者に周知・納得を得る。子どもたちは、職員に指示・命令されことなく主体的に遊び自分の興味のあるものを行い、職員もその大切さを理解し、子どもの興味ある園鑑を購入し関心を高めるようにしている。乳児は特に絵本・玩具等、同じ物を揃え、やりたい遊びが十分できる環境にしている。 【振り返り(検証)今後の方向性】職員会議で再度、非認知能力を学び、巡回指導員や保護者から好評を得ている。若い職員に公開保育に参加したり、実践を交えた研修が必要である。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 園の「一人ひとりの発達と個性を大事にし、生きる根っこを育む」との理念を実現する「非認知能力」を育むことを大切にしたい取り組みである。職員会議で非認知能力を身に付けられる指導について障害児保育の研修を受講した職員から全職員で基本的なこと(愛着等)からGWで話し合い共通認識を持っている。「非認知能力」を育む実践的な取り組みとして、夏野菜の栽培(イチゴ・ミニトマト等)、米の栽培～おにぎり作り・リース作り・泥団子づくり、カブトムシ・クワガタ、金魚、メダカ等の飼育を行い、非認知能力計画を保護者に周知・納得を得ている。子どもたちは、職員に指示・命令されことなく主体的に遊び自分の興味のあるものを行い、職員もその大切さを理解し、子どもの興味ある園鑑や乳児には特に絵本・玩具等、同じ物を揃え、やりたい遊びが十分できる環境にするなど発展させている。職員会議で再度、非認知能力を学び、巡回指導員や保護者から好評を得るなど成果を上げている。今後は入職してくる若い職員が公開保育に参加したり、実践を交えた研修を継続していくことを期待する。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】事業計画の地域貢献を実現するため地域の子育て支援事業等の充実を図る。

【取り組み】地域の子育て支援の①親子遊び広場「のびのびクラブ(毎週2回)」では、友達のいない家族等のため一緒に遊んだり、子育て相談を受け、身長・体重測定等充実する。②地域清掃(毎週1回)は保育園周辺の落葉樹やタバコや空き缶等の清掃を行う。③小・中・高生のボランティア受け入れは、保育士の手伝い(遊び・着替えの援助等)をする。小学生はなるべく受け入れる。

【取り組みの結果】①のびのびクラブは利用者が増え、地域になじみの少ない家族の交流や子育て不安の相談の場となっている。子育て講座「離乳食」は直ぐに予約が入る。今後は、「病氣・怪我の対応」「これからお産をする方」の講座を考えている。②地域清掃は約30分の清掃活動が定着している。③ボランティアは利用者が多く中学校の先生の受け入れも行った。保育士を目指している短大生に「保育士として働くにあたって」の話を8名に行う。【振り返り(検証)今後の方向性】「のびのびクラブ」に参加して親同士の交流ができる為、今後、人数を増やしていけるように対応していく。地域清掃は、子どもも参加できるようにする。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

事業計画に定めた地域貢献事業として地域の子育て支援事業等の充実を図る取り組みである。園では地域の子育て支援の①親子遊び広場「のびのびクラブ(毎週2回)」として、地域になじみの少ない子育て家族等に遊んだり、子育て相談を受け、身長・体重測定等参加しやすい環境を用意して地域の核家族への支援を充実させている。また、②地域清掃(毎週1回)は保育園周辺の落葉樹やタバコや空き缶等の清掃を定例化し、地域に貢献している。③小・中・高生のボランティア受け入れは、社会貢献活動に参加する意義を経験する良い機会となっている。のびのびクラブは利用者が増え、友だちがいない家族の交流や子育て不安の相談の場となっており、今後も、「病氣・怪我の対応」「これからお産をする方」の講座を考えており、今後のさらなる充実を期待する。

No.	共通評価項目	サブカテゴリ	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ1	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			評価(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○非該当
サブカテゴリ1の講評			
園の情報は掲示板、ホームページなどを活用して提供している 外壁に子育て支援事業「のびのびクラブ」の開催日等を掲示し、入所前の保護者に参加の案内をしている。また園内に一時保育や子育て支援事業の案内、法人の理念、方針、アンケート結果等を掲示して園の運営方針等を伝えている。ホームページでは、理念・目標・方針・対象年齢・開所時間・特別保育事業等を掲載し、特に力を入れている「手作り玩具」「絵本の読み聞かせ」「健康作り」を保育の特徴としてわかりやすく掲載し園情報を提供している。 園の情報を自治体や子どもに関わる専門機関等に提供している 園は、毎月の子どもの動向・支援児の申請・次年度の受け入れ人数等・園の事業内容や概要等の情報を自治体に提供している。また、子ども家庭総合支援センターや小学校等子どもに関わる近隣の関係機関に必要な情報を適宜提供している。建物の上階には、同じ法人が運営する介護施設があることから、その介護施設にも園の催し等の情報提供をしている。 園の見学は予約をしてもらい一度に5家族を受け入れ園内を案内している 利用希望者等にはホームページから見学の予約をもらい、火・木曜日の午前で受け入れている。1回の見学で5家族を受け入れて、園のパンフレットと特に力を入れている取り組みの3つの視点「手作り玩具」「絵本の読み聞かせ」「健康作り」を掲載した資料を渡して、副園長が40分ほどかけて各クラスを案内している。園児はクラス内や通路などで自由に遊んでおり、普段通りの様子を見てもらいながら園で力を入れている保育内容等を分かり易く説明している。			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園にあたり、重要事項説明書や契約書等で保護者に説明し同意を得ている 入園が決定した保護者へは事前に必要書類を渡して、予め内容を確認の上、基本的ルールなどを記入してもらい個別に面接を行っている。面接は担任の職員が行い、「入園のしおり(重要事項説明書)」に沿って、行事、保育内容で特に力を入れていること、準備物などについて丁寧に説明しながら、質問や疑問に答え「入園のしおり(重要事項説明書)」に関しての同意書」同意を得ている。特定の場合に第三者に個人情報提供などをする場合については「個人情報利用同意書」により同意を得ている。また、面接で確認した保護者の意向は児童票に記録している。 入園当初の子どもの状況にあわせて慣れ保育を行い不安を軽減出来るように配慮している 入園当初の子どもの不安やストレスが少しでも軽減出来るように、慣れ保育を行うことを入園時面談で保護者に説明している。園では初日は1時間の保育から始めて、子どもの様子や保護者の勤務状況等に含ませて1～2週間程度で徐々に時間を延ばして1日保育に移行できるようにしている。職員は、一人ひとりの特徴を把握し園生活の様子を見ながら保護者と相談して進めており、子どもの遊んでいる姿や食事が摂れているか等の判断を目安にして通常保育に移行している。また、乳児クラスは担当制を取っており愛着関係を深めて安心出来る環境を作っている。 卒園や転園時には子どもや保護者の不安が軽減するように配慮している 園は卒園に向けて生活習慣を整えるなどして子どもたちが入学を楽しみに待てるよう支援している。夜の睡眠時間を考慮して4・5歳児は午睡を行わず室内で静かに過ごすようにしており、入学に向けて自立した生活習慣が出来るように、各自がポケットにハンカチやティッシュを入れ、自分の持ち物を使うようにしたり、トイレの排便時の拭き方や男の子はズボンを下げないでおしっこが出来るように指導するなど、家庭と協力して進めている。卒園や途中転園時には、保護者との面談も行い、不安が軽減するように配慮している。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもの心身の状況や発達状況を児童票に記録し成長の過程を把握している 児童票の、家庭構成、入園前の食事・睡眠等の生活状況、運動・言葉等の発達状況、体質等の健康記録で、子ども全体の姿を把握している。保護者の勤務状況の変更やアレルギー内容の変更があった場合は、その都度児童票に記録している。子どもの成長は「保育経過記録」に記録し、「教育に関わる事項」の発達一覧表は、項目毎に発達が確認出来た月日を記入している。子どもの成長や発達援助の記録は「養護に関わる事項」、「教育に関わる事項」の二項目に分けて、0歳児は1・2か月ごと、2歳児以降は3か月ごとに記録し成長の過程を把握している。 全体的な計画に基づき子どもの発達をふまえた月間指導計画を立てている 全体的な計画は保育理念と目標を掲げ、養護と教育等について年齢別のねらいと目標を定めている。全体計画に基づいて、年間指導計画を立て保護者からの意見等を参考にして、月間指導計画を作成している。また、3歳未満児については発達の個人差があったり均一的な成長ではないことを考慮して、個別指導計画を作成しており、子どもの様子は個別日誌に記録している。保護者には、園だより・クラスだよりなどを配付し計画の内容を知らせている。 職員会議や朝礼等で子どもに関する情報を職員間で共有している クラス会議を毎月行い、月毎の目標や指導計画、個別指導計画等をたてている。職員会議では、計画案について様々な角度から意見を出し合い、年齢や子どもの発達に合わせた指導計画になるよう決定している。毎朝8:30からは朝礼を行い、クラスリーダーが出席し、園の最新情報の共有、留意事項、連絡事項の確認をしている。クラスごとの連絡ノート、非常勤職員も含め、朝礼に出席していない職員は必ず目を通して職員間で情報を共有している。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて入園時に園の方針を示し書面にて同意を得ている 子どもに関する個人情報の取り扱いについては、入園のしおり(重要事項説明書)を用いて、個人情報の利用目的等を示し、適切な取り扱いの徹底と個人情報の保護、法的に定められた機関への情報提供での利用について説明した上で入園のしおり(重要事項説明書)に関する同意書を得て、各自の児童票にファイリングしている。 羞恥心に配慮した環境を整え子ども自身も羞恥心を意識できるように支援している プール時の着替えは外から見えないように環境を整えて、女児はホール・男児はクラスで行うなど、男女で着替えの場所を決めている。終了時には病後児保育室・相談室等、空いている部屋を利用し、別々に着替えるようにしている。食事をこぼして濡れた場合等は、周りから見えないようにトイレ等で着替えるなどの配慮をしている。また、幼児になると、個室トイレを利用し、ドアを開けて他の人から見られないようにする事を伝え、自らも羞恥心に配慮できるように支援している。 子どもの最善の利益を守る事、人権・人格を尊重する事を理念に掲げ保育を進めている 園は、「子どもの最善の利益を守り、一人ひとりの子どもの健全な心身の発達を図る」を理念として、子どもの視点に立ち、言葉・態度・仕草等での表現に共感した関りを大切にしている。日々の保育では、座る場所や散歩の際に誰と手を繋ぐか等は子ども自身が決めている。職員会議では、不適切保育について研修を行い、不適切保育とはどういうものが当てはまるのか、普段の保育での言葉遣いや行動が適切であるのかを話し合っている。「OK言葉、NG言葉、言葉の置き換えのマニュアル」を利用し、日々の保育実践に生かすようにしている。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
園ではマニュアルを整備して、サービスの見直しを定期的に行っている 法人全体で統一した内容の手引き書(標準化)を作成して、職員全員が所持し、必要に応じていつでも確認出来るようにしている。また、「ふり返しシート」を利用し各自で業務の見直しをしている。年度初めの職員会議では大切にしたい考え・保育の姿勢を説明し職員全体で手順の確認を行っている。門のカギについては壊れた箇所を修繕して安全面に配慮した。しかし、門のパスワード設定は固定しているの で、セキュリティ対策のためにも定期的変更等、検討するとよい。 職員が働きやすいように業務水準を見直す取り組みをすすめている 職員会議を月に2回行い1回は園内研修として「不適切保育」、「1歳児クラスのレイアウト」などについてグループ討議を行い、職員の保育の質の向上を高め、保護者対応が統一出来るようにしている。また、子どもの少ない時間帯(8:30~9:30、16:00~17:25)にノンコンタクトタイム(保育士が、勤務時間内に子どもたちから離れる時間)を導入している。非常勤職員を保育に加配して、担任が書類の整理や教材作りなどを集中して行えるようにし働きやすい環境作りを進めて、業務水準を見直す取り組みをしている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36																					
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	標準項目 評点(〇〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>			評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	☐ 非該当
評価	標準項目																								
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	☐ 非該当																							
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	☐ 非該当																							
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	☐ 非該当																							
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	☐ 非該当																							
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	☐ 非該当																							
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	☐ 非該当																							
評価項目1の講評																									
子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている 入園前の生活状況、「保育経過記録」は事前に保護者から記入してもらっている。面接時に記録を基に健康に関する既往歴、アレルギー歴、心身の育ちや家族との関わり方、教育方針や保護者が心配していること、園に臨むことを確認して子どもの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている。把握した情報は「児童票」に記録して、職員間で共有している。 子どもが周囲の人・もの・ことに興味関心を持ち働きかけられる環境を工夫している 園では「手作り」の物に価値をおき年齢に合った玩具や遊具を職員が定期的に作っている。大型遊具は、職員が開園時に東京駅を作り、子どもたちが電車ごっこをして遊んでいた。充分遊んだ頃に、おままごとの家になったり、水族館になったりしながら、今だ補修しながら活用している。子どもたちは友達と一緒に変化を楽しみながら、遊びを展開している。充分遊んだら変わっていく遊具に興味関心を持ち子どもが主体的に関わり働きかけられる環境を工夫している。 小学校教育への円滑な接続に向け小学校と連携を取って援助している 園では小学校に依頼して、家庭で読まなくなった絵本を保育園の友達にプレゼントする「どうぞの絵本」の取り組みをしている。さらに毎月1回図書館職員に「読み聞かせ」ボランティアで協力してもらっている。小学生のボランティアは夏休みに保育園で自分たちが好きだった絵本を小さい子どもたちに読み聞かせをして交流をしている。ボランティアは卒園児や兄弟関係もいるが、他の小学生の参加も多く、次世代との交流になっている。また園児は小学校の行事、夏まつりや学芸会、作品展等の見学を通して小学校と連携をとって援助している。																									

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
家庭と保育園の連続性の中で子どもの生活リズムに配慮し連携をとっている 0～2歳児の連絡帳は園で用意した書式に、食事・睡眠等の一日の生活を園と家庭で把握できるように、夜間や休日の子どもの状態なども記録してもらっている。3～5歳児はノートを使用して、家庭の様子を可能な限り伝えてもらうようにしている。園での子どもの様子は毎日玄関に掲示し、SNSでも配信している。 子どもの発達に応じ生活習慣の大切さを伝え身につくように援助している 子どもの生活習慣に関しては保健だよりや食育だより、園だよりで、家庭でも子どもの生活リズムを大切にしていこうように園で行っている事やアイデア等を載せるとともに保護者にSNSでも配信している。親の都合等で就寝が遅い、保護者が子どものしつけができない、朝が遅くて日中の活動に参加できない子どももいるので、保護者の事情もよく聞き保護者ができる対応策と一緒に考え援助している。子どもたちの発達状況に応じて手洗い、うがい、歯磨き、トイレトレーニング、着替えなどが身につくように自分のことは自分でできるように援助している 休息の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している 4・5歳児は年間午睡をしないで過ごしている。1～3歳児の午睡は、休息の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。なかなか寝付けない子どもや早く目覚めた子どもは、4・5歳児室で絵本を読んだりしながら一緒に過ごせるようにしている。食事中に寝てしまう子どもは、口の中に食べ物が入っていないか確認をし、目覚めない場合はそのまま睡眠を優先している。食事前や食事中に寝てしまいそうな子どもは、前もって短時間の睡眠をとり、食事がとれるように配慮している。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
一人ひとりの自主性、自発性を認め遊び込める時間に配慮している 子どもの自由保育を大切に登園したらすぐ園庭で遊んでよいことになっている。散歩を予定している場合は、早く出発して十分に遊べる時間にすることなどの配慮をしている。給食の時間はある程度決まっているが、必ず皆と同じ時間とは決まっていないので、遊びこんでいる子どもの意志を尊重しながら相談して切り替えができるようにするなど、自主性、自発性を大切に遊び込める時間に配慮している。 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている ホールでは、体操、巧技台、鉄棒、跳び箱、なわとび、かけっこ、椅子取りゲーム、猛獣がりゲームなど、友だちとダイナミックに遊びを楽しんでいる。初めての活動に自信がない子どもも、職員と一緒に繰り返し行いながら楽しい経験を増やすようにしている。3～5歳児は毎週、朝、歌の会で、手のひらに太陽や虹、赤鼻のトナカイ等歌っている。9月から、手話の指導者が来てくれるようになり、手話を一生懸命練習して敬老の日に披露し好評を得た。歌や手話を学び子どもが様々な表現や言葉の伝えあいを楽しめるようにしている。 季節の移り変わりを感じながら様々な発見を楽しみ身体機能の育成を大切にしている 散歩は交通ルールを知る、園庭にはない発見や探索ができるなどをねらいにしている。近所の公園は0～2歳児が歩いて行ける距離で遊びに適していて、小さい子ども向けの遊具がある。園舎前の遊歩道は探索の宝庫で、子どもたちは道草遊びをしながら様々な発見を楽しんでいる。3～5歳児は、15分～30分歩くと公園がたくさんあり、遊具も大型で他園の子どもたちとも一緒に遊べる。さらに広場や自然いっぱいの公園、憩いの場等がある。季節の移り変わりを感じながら歩く、登る、降りる、くぐる、飛ぶ等を経験させて身体機能の成長を大切にしている。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
行事等の実施にあたり子どもが興味関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している 日頃の保育を行事に活かすようにし、子どもたちが取り組んでいる活動を発表している。子どもたちが経験したことや、印象に残った事、興味関心を持ったことを大切に、子どもの意見を取り上げるようにしている。クラスの行事や異年齢の行事では、大きい道具は職員が手伝うこともあるが小道具や必要な物はすべて子どもたちが手作りしている。行事の実施にあたり子どもが自ら進んで取り組むよう工夫している。 みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえる行事等を実施している 夏祭りの行事は「お店屋さんごっこ」を5歳児が企画して、3・4歳児に丁寧に教えながら年長児ならではの活動をしている。お店は、①りんご飴や、②焼きトウモロコシや、③イカ焼きや、④ゲームやさんで、グループで受け持ち、看板やお金なども作り、「くださーい」、「いくらですか」等会話をして楽しんだ。卒園児他60名が参加した。また、敬老の日のお客様は5歳児の祖父母で、その際には高齢者による壁面装飾・昔遊び・歌のプレゼントがあり、5歳児と祖父母の給食会を行った。 子どもが行事に取り組めるように保護者の理解や協力を得るための工夫をしている 5歳児は七夕の短冊に願いを自分で書き、0～4歳児は保護者と一緒に書いている。運動会の国旗については、0～2歳児の保護者に協力してもらい、3～5歳児は国旗の本を見ながら、好きな国旗を自分で描いている。また運動会、発表会、夏祭りなどの衣装は保護者に用意してもらっている。運動会では親子競技に参加することで保護者に興味を持ってもらい、子どもの一番の応援者として保護者の理解や協力を得て、子どもが意欲的に行事に取り組めるようにしている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 朝の延長保育は広い1歳児室で行い、全員同じ部屋で過ごせるようにしている。夕の延長保育は0～2歳児が1歳児室で、3～5歳児は2歳児室で行っている。いずれも1階の部屋で保護者の送り迎えがスムーズにできるように配慮している。職員は子どもが安心して、くつろげる環境を作って、子どもの甘えを受け止めスキンシップをとりながらゆったりとした環境にしている。疲れた子どもには横になってゴロゴロする場所や静かに過ごせる空間を作っている。パズルやトランプ、お絵描き、ゲームをしたり、机の上で車を走らせたりしながら過ごしている。 子どもたちは自然に異年齢で関わって遊び、友達関係を作っている 日常的に異年齢交流をしているので、大きい子どもは小さい子どもの面倒を見たりしお互いが良い経験をしている。絵本を読んであげたり、散歩の時などは靴を履かせてあげたりし、手をつないで遊んでいる。小さい子どもは大きい子どものまねをしたり、大きい子どもが持っている物を欲しがったりしながら遊んでもらっている。一緒に過ごす中で交流を深め共に育ちあえるように配慮している。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
自由に誰とでも好きなテーブルで食事をとれるような雰囲気づくりに配慮している 自由に誰とでも好きなテーブルで食事ができるように配慮している。一緒に食べられなかった場合でも、「おやつ一緒にしようね」など、子ども同士で誘い合って食事をしている。5歳児は当番が献立の説明と挨拶を行っている。お茶を自分でコップに注いで用意したり食事も自分で運んでいる。食事は残してもいいことになっているが、完食した喜びを味わってほしいので、量を減らしたりしている。さらに自由にお代わりができるように配慮している。 メニューや味付けなどの工夫を凝らしている 栄養士作成の献立を基に味付けなど工夫した食事を提供している。季節の食材で甘さや塩分の加減、みそ味、醤油味、出し汁等で工夫し、薄味で子どもが様々な味に慣れるように、和風・洋風にしたりして変化をつけている。また、煮物、焼き物、蒸した物なども、同じ味付けにならないようにし、おいしい食事が取れるように配慮している。アレルギー児対応は、保護者から医師の診断書・生活管理指導表を提出してもらっている。保護者には献立を確認してもらい、提供する際は栄養士・担任でチェックをしている。献立予定表はSNSで配信している。 野菜を栽培をする体験をして食について関心を高めるための取り組みを行っている 3～5歳児は米や野菜を栽培し食について関心を高めるための取り組みを行っている。3歳児はナス・ピーマンを育て、時間がたつと緑色から赤ピーマンに変化することを発見して学んでいる。4歳児はオクラを育て、大きくなり過ぎたオクラでスタンプ遊びをした。5歳児はトウモロコシを育ててポップコーンを作りをしようにと挑戦し食べることができた。さらに米作りは子どもたちと土をつくることから始め、収穫・脱穀して、おにぎりを作って食べることができた。また不要になった土で泥団子を作って遊び、野菜のソルやわらでリースを作り飾っている。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
健康や安全に関心を持ち病気やけがを予防・防止できるように援助している 散歩や遊びを通して体幹づくりをしている。公園の遊具で遊ぶ場合等は安全と危険、両方の説明をしている。また病気やけがに関する紙芝居や絵本で、「血はどうして出るの」や「からだ」の本などをクラスで読み聞かせている。看護師は毎日、朝・夕の巡回で子どもの状況等を把握している。歯磨きは座って磨くことを徹底している。定期健康診断は0歳児月1回、1～5歳児は年2回、身長体重測定は0歳児月2回、1～5歳児は月1回、歯科検診は6月(園では全クラス歯磨きを実施している)、歯科衛生指導は随時行い、実施後の結果はSNSで配信している。 医療的なケアが必要な子どもに専門機関等と連携し対応をしている 障害のある子どもや医療的なケアが必要な子どもは専門機関と連絡が取れるようにしている。熱性けいれんの子どもの座薬を預かり、アレルギーの子どものエビベンを預かっている。エビベンには園内研修で全職員が看護師から使用方法や注意事項の指導を受けて安全に使えるようにしている。障害のある子どもについては近隣に支援施設があり、連携を取れるようにしている。ケアが必要な子どもが年々増えていく傾向があるので外部研修の学びを共有して、園内研修でその子どものより良い対応方法に基づく対応をしている。病後児保育は一日3名として行っている。 保護者と連携をとって子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている。 感染症に関しては、玄関に掲示するとともに園だより・保健だより・クラスだよりで情報を提供し早期予防を呼び掛けている。乳幼児突然死症候群は、保護者会で説明し保健だよりで注意喚起している。さらに園で行っている子どもの睡眠時の見守りを知らせている。子どもの様子は睡眠チェック表に記録していることと、注意する観察ポイントは、①顔色、②呼吸、③咳、④鼻閉、⑤嘔吐、⑥体位の確認をすることをあげている。0～3歳児は5分間隔で様子を見ることを話し、子どもの健康維持に向けた取り組みを行っている。			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)																		
<table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td>○非該当</td> </tr> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当																	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当																	
評価項目8の講評 保護者の就労や家庭の事情に配慮して柔軟な支援を行っている 園では、産休明け保育、延長保育、病後児保育、アレルギー児対応、一時預かり保育、障がい児保育、在宅子育て支援など多様な保育サービスを行っている。家庭の状況や就労時間等を考慮して柔軟な保育時間の設定、急な残業の場合でも受け入れている。毎日の保育の要望に関することは連絡帳に記載しているので、担任が対応し相談の要望に応えられるように取り組んでいる。 子どもの発達について保護者と共通認識を得るようにしている 園の保育方針の具体的な考えや日頃の子どもの様子は園だより、クラスだよりで知らせている。保護者会では、各年齢ごとの概ねの発達過程について保育場面の子どものエピソードを紹介しながら説明している。1年間の子どもの成長がわかる映像があるのでいつでも見ることができるようにしている。映像には園の子どもの行事や活動から子どもの学び、育ちが分かるようにし、発達について保護者と共通認識を得るようにしている。																			
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(〇〇)																		
<table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</td> <td>○非該当</td> </tr> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当										
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当																	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当																	
評価項目9の講評 地域資源を活用し子どもが多様な体験や交流ができる機会を確保している 4・5歳児は併設の高齢者施設の利用者と月に1回交流している。地域の人も参加して、子どもたちは折り紙やあやとりをして一緒に遊んだり、歌やダンスの披露もしながら、おしゃべりを楽しんでいる。テラスで時々会うことがあり、1歳児も遊びながら手を振って挨拶をしながら交流している。図書館ではチューリップの球根植えや七夕集会、紙芝居や本の読み聞かせに参加し大いに楽しみ、星のステッキをプレゼントしてもらい園で遊んでいる。子どもが多様な体験や交流できる機会を確保している。 園の祭りに地域の人を招き子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している。 園主催で法人の「かけはし祭り」を日曜日に行った。園では職員が地域の人たちと子どもたちが楽しめるようなワークショップを企画した。園の子どもや小学生が親子で参加するほか、地域の人がポップコーン作りで参加し一日楽しんだ。ワークショップでは、ブラバン、缶バッチ、ゲームをし、中学生の吹奏楽部の演奏を聴き、楽しめた祭りになり子どもが職員以外の人と交流できる機会となった。また園では毎週1回夕方30分程、各クラスの職員が1名参加して地域清掃をしている。今では5歳児クラスの子どもたちも参加するようになった。																			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職員会議でクラスごとに考察を発表し、保育の質の向上に力を入れている	
内容①	園では新人も含め、一人ひとりが自分の意見を発表できるよう職員会議で少人数のGWで討議を重ね、チームワークを向上させ、保育の質の向上に力を入れている。クラスごとの振り返りの場で、声に出すことで意思疎通やお互いを尊重することの大切さを知り、チームワークが良くなり、クラス全体がスムーズに回るようになっている。その結果、例えば、子どもの活動の継続について職員がしっかり話し合うことで、独楽・あやとり・折り紙等手先を使う活動では、継続できるようになるなど保育の質の向上につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	小学校教育への円滑な接続に向け小学校と連携を取って援助している	
内容②	園では小学校に依頼して、家庭にある読まなくなった絵本を保育園の友達にプレゼントする「どうぞの絵本」の取り組みをしている。提供された絵本を次の人に手渡すSDGsの運動が地域に広がっていきような活動を目指している。さらに毎月1回図書館職員に「読み聞かせ」ボランティアで協力してもらっている。小学生のボランティアは夏休みに来て、自分たちが好きだった絵本を小さい子どもたちに読み聞かせをして交流をしている。ボランティアは卒園児や兄弟関係もいるが、他の小学生の参加も多く、次世代の交流になっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	職員が働きやすいように業務水準を見直す取り組みをすすめている	
内容③	職員会議を月に2回行い1回は園内研修として「不適切保育」、「水筒持参」、「1歳児クラスのレイアウト」などについてグループ討議を行い、職員の保育の質の向上を高め、保護者対応が統一出来るようにしている。また、子どもの少ない時間帯(8:30～9:30、16:00～17:25)にノンコンタクトタイム(保育士が、勤務時間内に子どもたちから離れる時間)を導入している。非常勤職員を保育に加配して、担任が書類の整理や教材作りなどを集中して行えるようにし働きやすい環境作りを進めて、業務水準を見直す取り組みをしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子育て支援事業「のびのびクラブ」を実施するなど地域の子育て支援に貢献している
	内容	園では園の機能や専門性を活かして地域の未就園児を持つ保護者に「のびのびクラブ」を週2回実施したり、離乳食講座や絵本の読み聞かせなどの行事等に参加してもらい子育て支援をしている。保護者同士の情報交換の場となるようゆったりした雰囲気を大切にしている。孤立している保護者が少しでも減るよう、保護者からの積極的な声掛けで参加者も増加している。また、地域に開かれた地域に愛される保育園として地域の小学生も参加して園周辺のごみ拾いや草むしりを行ったり、敬老の集いやお楽しみ会等地域の高齢者と交流し、地域貢献に努めている。
2	タイトル	子どもの最善の利益を守る事、人権・人格を尊重する事を理念に掲げ保育を進めている
	内容	園は、「子どもの最善の利益を守り、一人ひとりの子どもの健全な心身の発達を図る」を理念として、子どもの視点に立ち、言葉・態度・仕草等での表現に共感した関りを大切にしている。日々の保育では、座る場所や散歩の際に誰と手を繋ぐか等は子ども自身が決めている。職員会議では、不適切保育について研修を行い、不適切保育とはどういうものが当てはまるのか、普段の保育での言葉遣いや行動が適切であるのかを話し合っている。「OK言葉、NG言葉、言葉の置き換えのマニュアル」を利用し、日々の保育実践に生かすようにしている。
3	タイトル	野菜の栽培やコメ作りの体験をして食について関心を高め今後の調理保育を楽しみにしている
	内容	3～5歳児は米や野菜を栽培し食について関心を高めるための取り組みを行っている。3歳児はナス・ピーマンを育て時間がたつと緑色から赤ピーマンに変化することを学んでいる。4歳児は大きくなり過ぎたオクラでスタンプ遊びをしている。5歳児はトウモロコシを育ててポップコーンを作り食べることができた。さらに米作りは子どもたちと土をつくることから始め、収穫・脱穀をして、おにぎりを作って食べることができた。田植え用の土を園の庭でねかせて、泥団子を作ったり、泥んこ遊びをして楽しんでいる。野菜のツルやわらでリースを作り飾っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業計画に感染症対策や事故防止対策等のリスク管理について明示するとよい
	内容	園では「子どもの命を守るために」「チームで守る子どもの命」を合言葉に、怪我や食中毒等のようなリスクであっても、必ず職員同士で共有して細心の注意をはらい、保育を進めている。重大事故・マニュアルでは事故の発生原因を分析することが第一順位となっている。ヒヤリハットを報告しているが、件数や内容について集計されていないので、報告書をICT化し、報告とその分析が簡単にできるようにして事故防止に役立てるとよい。事業計画に事故防止対策等のリスク管理について記述し、子どもの身体生命の安全確保対策を明示するとよい。
2	タイトル	目標を具体的にどの様実践し実現するかを盛り込んだ事業計画にするとよい
	内容	園では令和5年度に策定した中期計画(10年先を目標)を基本に毎年の事業計画を策定し、保育理念や保育目標の実現に取り組んでいる。中期計画の中には「互恵互助」の理念を基本にした地域に開かれた「保育園児と高齢者・障害者等とのごちゃまぜ保育」の促進等を示している。事業計画には保育理念・目標・保育方針、保育の標準化等の重点事業等が示されている。しかし、事業計画としては具体性に欠けるので、今後は事業計画に示された方針に基づき目標を具体的に誰がどのようにして実践し実現するかを盛り込んだ計画にするとよい。
3	タイトル	園ではマニュアルを整備して、サービスの見直しを定期的に行っている
	内容	法人全体で統一した内容の手引き書「標準化」が作成されており、職員全員が所持し、必要に応じていつでも確認出来るようにしており、添付されている「ふり返しシート」を利用し各自で業務の見直しをしている。年度初めの職員会議では大切にしたい考え・保育の姿勢を説明し職員全体で手順の確認を行った。門のカギについては壊れた箇所を修繕して安全面に配慮したが、パスワード設定の定期的変更等、改善の余地もあるので検討するとよい。